

【学校教育目標】 ～自信と誇りを持って行動できる生徒の育成～

進んで学ぶ生徒 思いやりのある生徒 心身ともにたくましい生徒



玉中だより No.12

令和5年1月11日 文責：校長 山崎 則枝

癸卯(みずのと・う)

また、新しい年がやってきました。この「新しい年」というものは、素晴らしいものです。一生が、何の区切りもない日々の連続であったならば、きっと、それは耐え難いものかもしれません。私たちの祖先は、そこに、一年という区切りを発見し、生活の中に取り入れてきました。

一年という単位で、来し方を振り返り、一年という単位でこれからのことを考えてきました。そして、その原点を“正月”という形で作りあげました。

去年は・・・な年だった、今年は・・・、という考え方の中に祖先の知恵を感じます。一年という単位の中では、良い事もあれば悪い事もあります。それらをいつも心に留めておくことは大切ですが、時にはいたたまれなくなることもあります。そんな時、「来年こそは・・・！」と思います。だから、この“正月”というものは、良くない事があった人にとっては、より大きな意味を持つように思います。

正月になると、「今年こそは・・・！」という気持ちが不思議と湧いてきます。新しい年がやってきた今、新たな目標とともに新たな自分をスタートするチャンスです。

祖先が作りあげてくれた偉大な財産の意味を改めて考えてみてください。



さて、2023年の干支(えと)は・・・？干支は、一から十まで数えるための言葉である十干(じっかん)と十二支(じゅうにし)の組み合わせたもので六十干支という分類があります。つまり2023年は、十二支でいうと『兔年』、十干では十番目を表す『癸』となり、干支は『癸卯(みずのと・う)』となります。

『癸(みずのと)』は、物事の終わりと始まりを意味するとともに、「種子が計ることができないほどの大きさになり、春が間近で蕾が花

開く直前である」という意味があるとされています。また、『卯(う)』は、もともと「茂」という字が由来といわれ、「春の訪れを感じる」「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとされています。このふたつの組み合わせである『癸卯』には、『昨年までの様々なことの区切りがつき、次へと向かって行く』とか『これまでの努力が花開き、実り始めること』という意味を表しているといわれます。

2023年は、玉川中学校はもちろん社会全体が今までの数年間から大きく『飛躍』し、私たちの生活が大きく『向上』する、『花開く年』になって欲しいと思います。





謹賀新年

昨年様々場面保護者並びに地域の皆様に支えていただきありがとうございました。おかげさまで、玉川中学校の子どもたちも無事に新しい年を迎えることができました。日頃の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。
 本年も教職員一同、心も新たに「すべては子供たちの笑顔のために」をモットーに、日々の努力を新しい発展に繋げていくことができるよう努めてまいります。
 保護者・地域の皆様も共に玉中生を見守り育ててくださいますよう、よろしく願いいたします。
 令和五年一月
 玉川中学校教職員一同



1	日	元旦
2	月	
3	火	
4	水	
5	木	
6	金	小寒
7	土	七草粥
8	日	
9	月	成人の日
10	火	始業式
11	水	給食開始
12	木	
13	金	新入生入学説明会
14	土	
15	日	
16	月	通常日課・6時間
17	火	実力テスト(1・2年)
18	水	
19	木	委員会活動日・部活動なし
20	金	昼清掃日課・5時間 英語検定
21	土	合格
22	日	私立高校入試中心日
23	月	部活動なし
24	火	
25	水	後期人権集中学習 地域学習(2年)
26	木	
27	金	⑤⑥学校公開
28	土	
29	日	
30	月	
31	火	

まとめの



準備の



3学期は、令和4年度最後の学期であり学年のまとめの学期になります。そして、4月からの進級や進学に向けて歩み出す学期ともいえます。みなさんは、2学期の様々な学校行事や日々の学習の中で大きく成長し立派な実をつけました。その実の中には種が出来ています。3学期は、その種を蒔く時です。もちろん、種を蒔いただけでは芽は出ません。肥料や水をやり、寒さに耐え、しっかり根を張ることが大切です。1年後の自分の姿を想像し、進級・進学した4月には、その姿に向かってスタートできるように、この3か月で何をすべきか、この3か月をどう過ごすべきかを考え、行動していきましょう。

